

## ▼東海

## ▼カメラ部会

## 第33回作品展開催

阪田 晃(THK)

昭和63年、東海民放クラブ発足と同時に立ち上げられたカメラ部会は、先輩の方々の指導を受けながら撮影会などで創作に取り組み、次第にその成果を発表したいとの希望が出され、平成2年に第1回の作品展を開催しました。

以来この作品展は写真の発表に留まらず、東海民放クラブ員の交流の場としても重宝され、毎年開催を待つ方が多い展覧会として定着してきました。

今回は第8波のコロナ感染者が増加傾向にあった12月13日からの開催となり、出展希望者が集まるか心配されましたが、会員総数30名のうち18名が48作品を出展。また昨年からはじめた「全国写真の会フォトコンテスト」の日本民放クラブ会長賞の作品掲出もあり、テレビ和歌山の西岡成悟さんの「水溜まり」が展示され、無事今年も開催の運びとなりました。



日本民放クラブ会長賞の展示

仙台育英高校の野球部監督の「青春つて密」が注目されましたが、我々世代も「壮老も充分に密」ととらえ、年3回の撮影会は必ず実施しようと考え、5月江南市曼陀羅寺での藤、6月形原(かたはら)温泉の紫陽花、10月信州一泊撮影ツアーを実施し、年2回の勉強会も安全第一で無事終了しました。

この撮影会の成果の発表の場が今回の作品展です。

12月13日(火)、午前9時半の開場と同時にCBC杉浦社長、THK小島社長からスタンド花の贈呈があり、会場が一気に華やぎました。

また11時半にはTHKの夕方

のローカルワイドニュース「ONE」の取材を受け、その後、6時のニュース内で放送されました。これが大いに影響したのか、翌日「ニュース見た」との来場者が多数みられました。



CBC、THKの社長からのスタンド花



THKの「ONE」の放送

会場には懐かしい職場の仲間が顔を見せてくれ、コロナで3年間OB総会やクラブ総会を中止せざるを得なかった中で、久しぶりに会える機会を作ってくれたと感謝されました。

期間中、寒波の影響で午前中の来場者が少ない日もありましたが、期間平均1日約110名、合計900名の来場者でした。

コロナ以前は千名を超えていたもので、ようやくウイズコロナの機運が市中に感じられるのを実感することができました。

今回の特記事項としては、出展者18名中、2人の女性の初出展があつたことです。うち一人はスマホでの撮影、もう一人も小型カメラでの撮影でしたが、いずれも半切、A3に伸ばしても作品として充分鑑賞に堪えられる出来で、カメラ部会の講師の先生から二人とも男性にない視点で撮影して今後の活躍が期待できる」との評価を頂きました。

この他にもスマホでの撮影の作品も2〜3みられ、コロナ感染拡大で撮影範囲が限られる中、今後は気楽に撮影した日常の一瞬を切り取った作品が増えてくるのでは、と思わせる作品展でした。